



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこばと

2021.3

No.444

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



松伏総合公園&松伏記念公園及び周辺の野鳥たち

Part II

尾上 愛実 (松伏町)

1. はじめに

今回は2018年9月号の特集、その第2弾です。当地でのバードウォッチングは今年で7年目になります。その観察記録と、記録を整理して見えてきたことをまとめました。

なお、特集内の分析結果は私が昨年の夏にまとめた論文(補1)を基にしています。

2. 観察種数の推移

まず確認種数ですが、前回の時点では87種でした。約2年4か月たった今(2021年1月)、99種となっています(P4表1)。ほとんどが春秋に立ち寄った鳥です。その中でも、オカヨシガモは昨シーズンも長期間見られ、今シーズンも何回も見られているので、新しい越冬地選ばれたのかもしれませんが。今は記念すべき100種目を待っています。

また、論文では2013年10月から2020年7月までの観察期間を、春(3~5月)、夏(6~8月)、秋(9~11月)、冬(12~2月)の四季に分け、観察地の環境を調整池、公園林、水田、ヨシ原の4つに大別して、それぞれの季節別・環境別の種数を数えました。季節別では、複数の季節にまたがって見られる種はそれぞれの季節ごとに数えたため、合計は総観察種数と一致しません。また、環境別では、鳥は1種類の環境のみを使用するわけではないのですが、その種にとって最も重要だと思われる環境を1つに絞り、集計しました。

季節別にみると、春は75種、夏は31種、秋は68種、冬は56種見られました(図1)。夏より冬のほうが種数が多いということが、数字から読み取れます。春と秋に種数が多いのは、旅鳥に加えて夏鳥と冬鳥の一部が見られるからではないでしょうか。

また、環境別に見ると、調整池では19種、公園林では36種、水田では33種、ヨシ原では8種見られました(図2)。

鳥は多様な環境に生息していて、特に公園林と水田は多くの種が見られていることがわ

かります。それは、公園林を主に利用するスズメ目の鳥は、日本で見られる鳥のうち3分の1を占める巨大なグループであり構成種数が多いためと考えられます。そして、水田は様々な分類群の鳥が生息しているため、それぞれ種数が多くなっていると考えられます。

観察していて印象的だったことを紹介しますが、初夏にハシボソガラスがムクドリを食べていたことです。生きているムクドリを捕まえたハシボソガラスが、ムクドリを水田に張ってある水につけて弱らせてから、畦の上にひっぱり上げて食べていました。つがい相手と子どもと思いき他のカラスも近づいてきて、4羽ほどで順番に食べていました。

また、年明け前には、ハシボソガラスがドバトを食べていました。ハトが食べられたあとはよく見つかるのですが、実際に食べているシーンは初めて見ました。こちらは木の上の込み入った枝の中で食べていて、前述のハシボソガラスとの習性の違いがはっきりと表れていました。

3. 気温との関係

観察記録のうち2015年からの5年ないし6年間の、鳥の初鳴きや渡り鳥の初観察日の推移を気温と比較しました(図3, 4, 5)。ツバメ初見日、ヒバリ初鳴日、モズ初鳴日は5年ないし6年間で早期化する傾向がありました。

6年間のツバメの初見日と3月の平均気温には負の相関がありました(図3)。このことから3月の平均気温が高いほどツバメが渡来するのが早いことが推測できます。渡り鳥は日照時間が渡り衝動のスイッチの1つになっている、という文献から日照時間も考慮しましたが、日照時間は年によってほぼ変わらず、相関はほとんどありませんでした。

6年間のヒバリの初鳴日と2月の平均気温には強い負の相関がありました(図4)。この

ことから、2月の平均気温が高いほどヒバリが鳴き始めるのが早くなっていることが推測できます。

5年間のモズの初鳴日と9月の平均気温との間には正の相関がありました(図5)。このことから、9月の平均気温が高いほどモズが鳴き始めるのが遅いことが推測できます。

このように、ツバメとヒバリは気温が高いほど渡来やさえずり始めが早くなることが推測され、モズは気温が高いほど高鳴きを始めるのが遅いことが推測されます。このことは、気温変化は野鳥に影響を与えていると言えます。地球温暖化が進んでいる今、野鳥の動向を見ることは重要だと言えるでしょう。

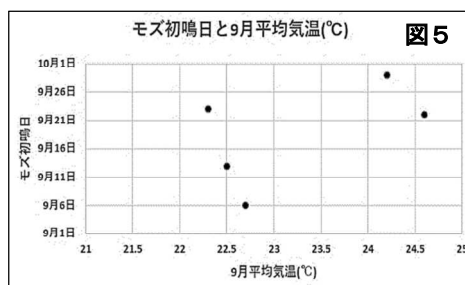
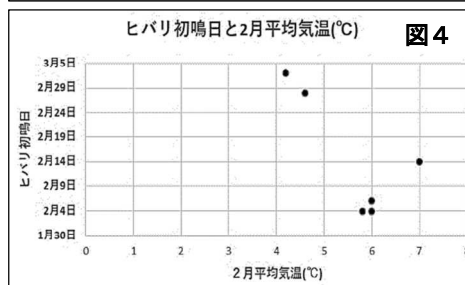
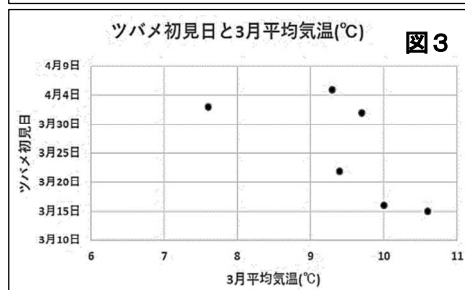
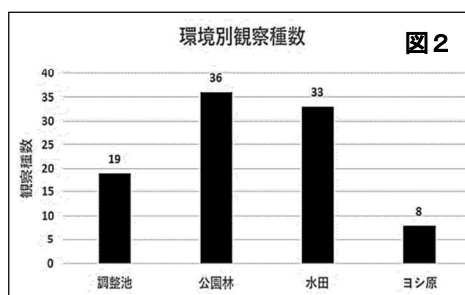
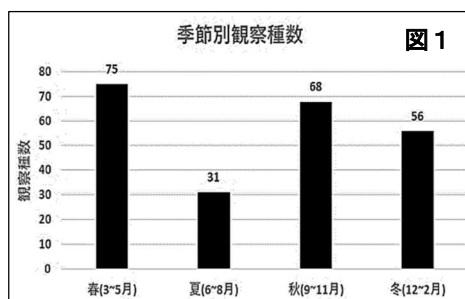
ただし、サンプルが少ないことと、植生、昆虫量、積雪量などの気温以外の条件との比較ができなかったことから、気温変化がどの程度野鳥に影響を及ぼすのかについては検証が不十分です。

また、ツバメなどの渡り鳥に関しては、繁殖地の日本だけではなく越冬地の環境も大きく影響していると考えられます。今回は相関関係が見られましたが、さらに観察を続けていくうちに違うことが見えてくるかもしれません。

なお、正確な数値に基づいたデータがないため論文にはできませんでしたが、気になっていることがあります。それはカモの種数や個体数の変化です。ヒドリガモやオナガガモは、観察を始めた当初はそれなりの数がいました。今は、ヒドリガモはほぼ見られず、オナガガモは個体数が減っています。その代わりに、ハシビロガモが近年よく目に付くようになりました。単純に飛来総数が減ったのではなく、まつぶし緑の丘公園の池ができたことなども関係していると思われます。皆さんのフィールドではそのような変化はありますか。

4. 終わりに

一昨年から当地では中川沿いに東埼玉道路の建設が進んでいます。今のところは、工事の影響はあまりないように見えます。これからも観察を続けて、当地での野鳥の変化を見ていきたいです。



補1：中央大学 第20回高校生地球環境論文賞・優秀賞「気温変化が野鳥に与える影響」(論文はインターネットで公開されています。編集部)

表1 観察種一覧（前回の特集から増えた種には*をつけています）

No.	種名(標準和名)	春	夏	秋	冬	環境
		3～5月	6～8月	9～11月	12～2月	
1	キジ	○	○	○		ヨシ原
2	オカヨシガモ*				○	調整池
3	ヨシガモ*			○		調整池
4	ヒドリガモ	○		○	○	調整池
5	マガモ	○			○	調整池
6	カルガモ	○	○	○	○	調整池
7	ハシビロガモ	○		○	○	調整池
8	オナガガモ	○		○	○	調整池
9	コガモ	○		○	○	調整池
10	ホシハジロ			○		調整池
11	キンクロハジロ	○		○	○	調整池
12	スズガモ			○		調整池
13	ミコアイサ			○	○	調整池
14	カイツブリ	○	○	○	○	調整池
15	アカエリカイツブリ*	○			○	調整池
16	カンムリカイツブリ*	○			○	調整池
17	キジバト	○	○	○	○	林
18	カワウ	○	○	○	○	調整池
19	ゴイサギ	○	○	○		水田
20	アマサギ	○	○	○		水田
21	アオサギ	○	○	○	○	水田
22	ダイサギ	○	○	○	○	水田
23	チュウサギ	○	○	○		水田
24	コサギ	○	○	○	○	水田
25	クイナ	○				ヨシ原
26	バン	○	○	○	○	調整池
27	オオバン	○		○	○	調整池
28	カッコウ	○				林
29	ムナグロ	○				水田
30	コチドリ	○	○			水田
31	タシギ	○		○		水田
32	チュウシャクシギ*	○				水田
33	クサシギ	○		○		水田
34	キアシシギ	○				水田
35	イソシギ	○				水田
36	キョウジョシギ*	○				水田
37	エリマキシギ	○				水田
38	タマシギ*			○		水田
39	ユリカモメ				○	調整池
40	コアジサシ	○				水田
41	ミサゴ*			○		水田
42	トビ	○		○	○	水田
43	ハイタカ			○	○	水田
44	オオタカ	○		○	○	水田
45	ノスリ	○			○	水田
46	カワセミ	○	○	○	○	調整池
47	コゲラ	○	○	○	○	林
48	チョウゲンボウ	○	○	○	○	水田
49	コチョウゲンボウ				○	水田
50	ハヤブサ	○		○	○	水田

No.	種名(標準和名)	春	夏	秋	冬	環境
		3～5月	6～8月	9～11月	12～2月	
51	サンコウチョウ			○		林
52	モズ	○		○	○	林
53	カケス			○		林
54	オナガ	○	○	○		林
55	コクマルガラス			○	○	水田
56	ミヤマガラス			○	○	水田
57	ハシボソガラス	○	○	○	○	林
58	ハシブトガラス	○	○	○	○	林
59	ヒガラ				○	林
60	シジュウカラ	○	○	○	○	林
61	ヒバリ	○	○	○	○	水田
62	ツバメ	○	○	○		林
63	イワツバメ			○		水田
64	ヒヨドリ	○	○	○	○	林
65	ウグイス	○		○	○	林
66	エナガ*			○		林
67	エゾムシクイ*			○		林
68	センダイムシクイ	○		○		林
69	メジロ	○		○	○	林
70	オオヨシキリ	○	○			ヨシ原
71	セッカ	○	○	○		ヨシ原
72	ヒレンジャク*	○				林
73	ムクドリ	○	○	○	○	林
74	トラツグミ			○		林
75	シロハラ	○		○	○	林
76	アカハラ	○			○	林
77	ツグミ	○		○	○	水田
78	ジョウビタキ	○		○	○	水田
79	ノビタキ	○		○		水田
80	エゾビタキ			○		林
81	サメビタキ*			○		林
82	コサメビタキ			○		林
83	キビタキ	○		○		林
84	オオルリ	○				林
85	スズメ	○	○	○	○	林
86	キセキレイ			○		林
87	ハクセキレイ	○	○	○	○	林
88	セグロセキレイ		○	○		水田
89	タヒバリ	○		○	○	水田
90	アトリ	○			○	林
91	カワラヒワ	○	○	○	○	林
92	マヒワ	○			○	林
93	シメ	○			○	林
94	ホオジロ	○	○	○	○	ヨシ原
95	ホオアカ	○				ヨシ原
96	カシラダカ	○			○	ヨシ原
97	アオジ	○		○	○	林
98	クロジ	○		○		林
99	オオジュリン	○			○	ヨシ原



突然ですが『しらこぼと』は5・6月合併号より 年6回の隔月発行です 編集部

ここに至る経緯を役員会への上程文とその際の添付ファイルでご説明します。

『しらこぼと』は、1984年7月号(No.2)より毎月1回1日発行を継続して参りました。その間、発送作業はボランティア有志が事務局に集まって行っていました。コロナ禍の今、それもできなくなっていました。

そこに、昨年末に遠藤孝一本部理事長より野鳥誌発行減に伴う支部報発送費用の負担依頼の連絡(添付ファイルの1)が入りました。

その対応について、2021年1月20日(水)～22日(金)にメール交換による1月第2回役員会を開催しました。上程文は以下の通りです。

【上程文】

添付ファイル(右枠内)の通り、「議案1 来年度から『しらこぼと』の発行を、本部誌の発行に合わせ、隔月年6回とする。」を、山部直喜代表、海老原美夫副代表、小林みどり副代表の3名で上程します。

前に、当会の財務状況、「運営準備積立金」についてご説明しましたが、本部誌が隔月発行になる事態では、「運営準備積立金」で、ある程度長く続くかもしれない苦境を支え得ると考えるには無理があります。

『しらこぼと』を年6回、隔月発行にするのは誠に残念至極ですが、本部誌の発行に合わせるこの対応がもっとも無理がなく、やむを得ないものと、どうかご理解を賜りますようお願いします。

結果、本議案は承認されました。

その際、事務局に「『野鳥』誌の発行回数に元に戻った場合、『しらこぼと』も毎月発行に戻すことはあり得るか」とのご質問を複数の方からいただきました。しかし、現状ではなんともお答えできかねます。その時は、また皆様のご意見をあらためてお伺いします。

また、複数の方から、議案とは別の『しらこぼと』の内容等に関するご意見等があり、参考意見として編集部に届いています。

年6回の隔月発行、誠に残念です。しかし、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【添付ファイル 【2021/01/20-22 役員会議案説明書】】

1. 当会代表に、概略次のメールが届きました。「今年度は、新型コロナの影響による大幅減収の対応として、役員報酬20%カット、職員賞与の抑制、事業の削減などを行ってきました。しかしながら財政状況は依然として厳しく、(中略)、来年度につきましても新型コロナの感染状況が好転するとは考えにくく、財団の財政も当面厳しい状況が続いていくと想定しています。そこで、来年度については、野鳥誌を5・6月の合併号より年6回発行にする予定です。野鳥誌発行減に伴う支部報発送費用の負担をお願いします。1月中には詳細を決めたいと思います。」
2. 事務局担当海老原は『野鳥』誌との同封発送を請け負っている(株)メールに『野鳥』誌と切り離して年12回『しらこぼと』を単独で発送する場合の費用見積り(作業費、郵送料、封筒作成)を依頼しました。
1/13 付け見積書によれば、年12回発送で合計2,380,488円になりました。令和元年度の同封発送を含めた従来の決算によると、封筒作成料などを含めて、867,711円でした。
3. 参考として、DM便のサイトを見てみましたが、限られた期間内では、費用削減できる業者は見つかりませんでした。
4. 印刷費の点でも、例えばオンデマンド印刷は、1,000部を超えるとかえって費用は高くなることで、費用削減の道は見当たりません。
5. 本部との同封発送から切り離して、当会単独で年12回発送することは、難しいと言わざるを得ません。
一方、年6回発行にして『野鳥』誌との同封発送を続けられれば、その分本部の送料も節約でき、本部の財政にささやかでも貢献することができます。
6. 第三種郵便物の規定では、年6回発行に切り替えることは可能です。本部との発行日のすり合わせも可能な範囲内と思われます。
7. 「議案1 来年度から『しらこぼと』の発行を、本部誌の発行に合わせ、隔月年6回とする。」を、山部直喜代表、海老原美夫副代表、小林みどり副代表の3名で上程します。



野鳥情報

さいたま市緑区寺山 ◇9月9日、ふと青空を見上げると、低空を舞うサシバ1。次第に高度を上げて行った（鈴木紀雄）。

川越市 伊佐沼 ◇9月18日、アメリカウズラシギ1、イソシギ1、イカルチドリ1、コチドリ多数。他にカルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、コゲラ、シジュウカラなど（長嶋宏之）。◇9月27日午前、ヒドリガモ、カルガモ、ハシビロガモ、シマアジ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、セイタカシギ、オオハシシギ、アオアシシギ、イソシギ、トウネン、アメリカウズラシギ、エリマキシギ、カワセミ、モズ、ヒヨドリ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワなど（嶋田富夫）。◇9月27日、イカルチドリ10±、セイタカシギ幼鳥2、オオハシシギ1、コアオアシシギ幼鳥2、アオアシシギ幼鳥5、アメリカウズラシギ幼鳥1、エリマキシギ幼鳥1、アジサシ幼鳥1（鈴木 功）。◇9月29日、今週の伊佐沼はエリマキシギ他でカメラマンがたくさん集まった。エリマキシギ、アメリカウズラシギ（下写真 左：エリマキシギ 右：アメリカウズラシギ）、



サシバなど（井ノ口博司）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇9月19日、藪からウグイスの「チャッ チャッ」の声。エゴノキの実にヤマガラなど。10月3日、ヒドリガモ2、カイツブリ2、カルガモ、ダイサギ4、アオサギ2、カワセミ

若鳥2、ツツドリ1、カッコウの仲間1（飛翔）、カワウ、キジバト、シジュウカラ、コゲラ、エナガ、エゾビタキ5、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ハシブトガラス、ムクドリ、モズなど（鈴木紀雄）。

◇9月22日、エゾビタキ2、コサメビタキ1、キビタキ♀1、エナガ15+の群れ。オオタカ1、林の中を飛ぶ。サシバ1、南から出現し、西に飛び去る（藤原寛治）。◇10月13日、ツバメが1羽上空通過。ツツドリが大きな毛虫を食べていた。他にカルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イソシギ、コゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。

上里町勅使河原 ◇9月20日、小さな休耕田にサギ類とコチドリ11、トウネン1飛来。冬羽に移行中のツメナガセキレイ成鳥1も採餌していた（鈴木紀雄）。

行田市須加 ◇9月20日、タシギ20±、セイタカシギ♀成鳥1、幼鳥1、コアオアシシギ幼鳥1、クサシギ1、タカブシギ12、イソシギ幼鳥1、オジロトウネン成鳥1、幼鳥1、アメリカウズラシギ幼鳥1、ウズラシギ幼鳥2。9月27日、ツルシギ幼鳥1、タカブシギ5、アメリカウズラシギ幼鳥3、ウズラシギ幼鳥2。アメリカウズラシギ3羽を同時確認。3羽とも至近距離にいた（鈴木 功）。

鴻巣市大間一丁目 ◇9月21日朝9時頃から20分間ほど、薄陽のこぼれる南東の空にサシバ20+のタカ柱が立つ。9月22日午前7時30分頃、「チョーチョーチョー」というアオアシシギの声を2度聞く。姿は見られず（榎本秀和）。

越谷市越谷レイクタウン ◇9月22日、メボソムシクイ3、ビオトープエリアで観察した。10月11日、ミサゴ2、オオムシクイ2、キビタキ幼鳥1。10月17日、トモエガモ幼鳥1。10月31日、スズガモ♀1（鈴木 功）。

さいたま市岩槻区横根 ◇9月23日、電線にとまるコムドリ4（鈴木紀雄）。

白岡市 白岡市総合運動公園 ◇9月23日、

カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、カワセミ、スズメ。9月28日、オオタカ1、ゆっくり旋回（長嶋宏之）。

桶川市 赤堀 ◇9月25日午前5時50分、コガモ27。今季初認（小貫正徳・とみ子）。

さいたま市見沼区膝子 ◇9月26日、タシギ8が次々に「ジェッ」と鳴いて飛び立つ。1羽は居残り。さらにタシギ3の飛翔。あちこちでモズが高鳴き。他にダイサギ、チュウサギ、セッカ、ヒバリ、カワラヒワなど。10月17日、刈田の間をゆっくりと移動していくウズラ♂1。10月26日、ハシボソガラス約50の群れ中にミヤマガラス数羽を確認（鈴木紀雄）。

久喜市菖蒲町下栢間 ◇9月27日午前6時15分、サンコウチョウのさえずりが屋敷林の高木から聞こえる。この場所は初夏にも鳴いていた所、南へ帰るのか。10月20日午前6時、栢間赤堀沿いの開けた田んぼでオオタカ2。隣り合う電柱の先端にとまっていた。この場所では3週続けて観察する（小貫正徳・とみ子）。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇9月27日、カケス9が次々と北から飛来。ここで今季初認。サメビタキと思われる1羽、梢から梢に移動。9月29日、モズ♂1が電線に。カケス数羽が飛び交う。10月3日、ヒヨドリ8、渡って来て騒がしくなったが、今季はヒヨドリが少ない。モズ♂が1ヶ月ほど前から高鳴きしていたところに、♀が来て追いかけてっことが始まった。10月11日、ヒヨドリが増えてきたところに、カケスが3～5羽加わり、賑やかになった。コサギ1が釣り人のプレゼントを静かに待っていた。そこに1羽が何処からともなく加わって、プレゼントの取り合いが始まった（長嶋宏之）。

東秩父村 皇鈴山 ◇9月28日、アオバト、アマツバメ、ハチクマ、トビ、ツミ、サシバ、猛禽類不明種1、アカゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、イワツバメ、ヒヨドリ、エナガ、メジロ、エゾビタキ、キセキレイ、ホオジロ（嶋田富夫）。

蓮田市関戸 N36.0091 E139.6292 ◇9月28

日夕方、刈り取った稲をはさかけした竹に、ノビタキが2羽とまっていた。少し離れたところに、さらに6羽。越冬地に向かうまで、しばしの休息か（関口明宏）。

上尾市地頭方～平方領領家 ◇10月4日、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キジ♀3、♂1、キジバト、メジロ、コジュケイ、ツバメ9、イワツバメ、ムクドリ成鳥38、幼鳥12、電柱にスズメ42、シジュウカラ、アオサギ、ダイサギ5、モズ、カケス、コゲラ、ヒヨドリ28、モズ、ホオジロ、カルガモ、カワセミ幼鳥1、成鳥1、オナガ26、尾の短い幼鳥2、トビ2、ノスリ2、ツミ2、ジョウビタキ♂3♀1、ガビチョウ、カワラヒワ、ヒバリ、ウグイス。イタチ1匹確認。10月11日、キジバト、モズ、シメ、メジロ、カルガモ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、カワセミ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、コジュケイ、ハシボソガラス、電柱にスズメ32。賑やかな声が聞こえ探してみるとハナミズキの木に沢山のムクドリ、オナガ。赤い実を食べていた。金木犀の木にシジュウカラ18。ヒヨドリ51はこの辺で多くみるのは初めて（村越百合子）。

北本市 北本自然観察公園 ◇10月5日、ヨタカ♂1。10月27日、ヨタカ♂1（下写真）。ヨタカは1ヶ月の長期滞在。同じ場所にとまっていた（鈴木 功）。◇10月5日、今年もヨタカがきてくれた。他にカルガモ2、コガモ10±、カイツブリ1、バン1、カワセミ1、ハシブトガラス、ヤマガラ2、ヒヨドリなど（長嶋宏之）。



蓮田市黒浜 ◇10月6日 黒浜沼周辺でカイ

ツブリ、ダイサギ、チュウサギ、モズ、ハクセキレイなど（長嶋宏之）。◇10月11日、稲の間にタシギ4、更に2羽飛来。上沼でオオバン2、カイツブリ3、バン4、カワセミ♂2、エゾビタキ1、アリスイの「クイ クイ クイ」の声。10月18日、上沼でアリスイの声2、アカゲラの声、コガモ3、ダイサギ1、アオサギ1、カイツブリ成鳥2、若鳥2、カワラヒワ、モズ、シジュウカラ、コゲラ、カケス4飛翔、カワセミとウグイスの声（鈴木紀雄）。

さいたま市中央区八王寺5丁目 ◇10月13日 朝、かやのき団地8号棟庭でツミ♂1。近くの公園と20分ほど行き来しながら、繰り返し鳴く（大塚純子）。

さいたま市緑区上野田 ◇10月14日、ヨシ原からアリスイの声（鈴木紀雄）。

草加市柿木町 そうか公園 ◇10月15日、トモエガモ幼鳥1、オオタカ1、ツツドリ赤色型1、オオムシクイ3、キビタキ♀型4、オオルリ♂幼鳥1、エゾビタキ幼鳥3、カケス10±（鈴木 功）。

熊谷市大麻生 ◇10月16日、大麻生野鳥の森の探鳥コースでジュウイチ（下写真）に出会った。ジョウビタキ初認。キビタキもいた（田島利夫）。



草加市柿木町 中川河川敷 ◇10月17日、ミサゴ1、オオタカ幼鳥1、アリスイ1、カケス1（鈴木 功）。

さいたま市西区 ◇10月18日、島根橋～堀の内橋間でコガモ100+、カルガモ56、マガモ、ハシビロガモ、オオバン、チョウゲンボウ、ヒヨドリ、モズ5、ムクドリ600+など（大塚純子）。

さいたま市緑区南部領辻トラスト1号地周辺

◇10月18日、スズメ、シジュウカラ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、メジロ、モズ、ヒヨドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キジバト、エナガ10、ハクセキレイ、カルガモ、オオタカ2、カケス4。ヤマガラ2、1羽は幼鳥だろうか灰色でよく見ると体下に少しオレンジ（レンガ）色のような色がつき始めていた（村越百合子）。

蓮田市笹山 ◇10月18日、田でハクセキレイ6と採餌するタヒバリ11、今季初認（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区横根 ◇10月19日、電線にノスリ1、今季初認。チョウゲンボウ♂1も電線に（鈴木紀雄）。

松伏町 まつぶし緑の丘公園 ◇10月21日、ヒドリガモ100±の群れの中に、オシドリが2羽混じっていた。1羽は♂換羽中と見えたが、あとの1羽は、嘴が黒みがかかった紅色だったので識別に戸惑った。しかし、2羽はペアのように行動していたので、嘴が淡紅色を帯びたタイプの♀かも知れない。その個体の羽ばたきから、オシドリの翼下面は先端部を除いてほぼ全面黒いことを、恥ずかしながら初めて知ることができた（高田範之）。

春日部市武里中野(53397640) ◇10月21日 午後4時50分頃、ムナグロ若鳥1。日課の鳥見でサッカーグラウンドに寄ったら、芝生の上に茶色のゴミの様なものが目に入る。金網フェンス越しに双眼鏡を向けたら、なんとムナグロが1羽じっと佇んでいる。証拠写真を撮るとフェンスに接近すると飛んで奥に着地。全体が茶褐色、胸に縦縞、腹部に横縞がうっすらと見えたので若鳥と判断した（石川敏男）。

さいたま市岩槻区加倉5丁目 ◇10月24日 午後4時30分、柿の木の天辺でジョウビタキ♀1、今季初認（藤原寛治）。

表紙の写真

クイナ科ヒメクイナ属ヒクイナ

例年は4-5月頃にやって来るヒクイナが、昨年は何故か早く、2月にやって来ました。

榮 武男（春日部市）



緊急事態宣言延長により3月の探鳥会の開催は流動的です(※)。ホームページでご確認ください。4月以降の探鳥会も事前予約制で計画しています。普及部

※ 3/7中止決定。3/18, 3/20, 3/27流動的。

【各探鳥会（事前予約制）共通の開催要項】

1. 日本野鳥の会会員限定の先着順（ただし、埼玉会員優先）とする。
2. 申し込みは、当会のホームページからとする（開催日の4週間前から、ホームページで受け付けを開始）。
3. 探鳥会の運営は「コロナ禍の下での探鳥会運営マニュアル」（最新版が、当会ホームページの「探鳥会」>「今月の探鳥会」から閲覧できます）に沿って実施する。
4. 必須条件：マスクまたはフェイスシールドなどの飛沫防止策（ご用意のない方は参加をご遠慮ください）。
5. 筆記用具や観察用具（双眼鏡等）は、各自で用意する。
6. 万一、探鳥会開催後に参加者から感染者が出た場合には、参加者名簿を保健所に提出する。
7. 緊急事態宣言が解除されても、感染防止のため開催中止を継続する場合もある。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月4日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 08:38 観察公園前」下車。

解散：正午前に集合地で。

定員：20名

担当：吉原(俊)、相原(修)、秋葉、浅見(徹)、近藤、千葉、吉原(早)

見どころ：今年の桜の開花状況は？ 毎年恒例だったお花見探鳥会。今年こそは開催したいです。気の早いツバメにも会えるかな。

東京都・裏高尾植物観察会

期日：4月10日（土）

集合：午前10時10分、JR 高尾駅北口 改札を出た所。

交通：JR 大宮 むさしの号八王子行き 08:53 発に乗車→国立で JR 中央線 高尾行き 09:35 発に乗り換え→高尾 09:56 着

解散：午後2時ころ現地で（弁当を持参してください）。

定員：15名

担当：小林(み)、工藤、藤田

見どころ：スマイルの仲間やヤマルリソウなど、春の植物を探して裏高尾を歩きます。足擦りは、しっかりと。植物観察が主なので望遠鏡は不要です。

さいたま市・三室地区探鳥会

期日：4月18日（日）

集合：午前9時、「みむろ桜広場」（さいたま市立病院バス停（終点）から徒歩約5分）。

交通：JR 北浦和駅東口バスターミナルから 08:31 東武バス「さいたま市立病院行」で終点下車。

解散：正午前に集合地で。

定員：20名

担当：浅見(徹)、青木、小林(み)、須崎

見どころ：ヒバリやホオジロの囀りを聞きながら、春の見沼たんぼで半日過ごしませんか。キジのディスプレイ行動やコチドリなども。

北本市・石戸宿臨時探鳥会

期日：4月25日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園学習センター玄関前広場。

交通：JR 高崎線 北本駅西口から、「北里大学メディカルセンター行き」バス 08:38 発で「自然観察公園前」下車。

解散：正午前に集合地で。

定員：20名

担当：吉原(俊)、相原(修)、秋葉、浅見(徹)、近藤、千葉、吉原(早)

見どころ：夏鳥が到着しているころ。葉が茂



行事報告

11月7日（土） さいたま市 大宮第二公園

参加：16名 天気：晴

ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ
キンクロハジロ カイツブリ キジバト アオサ
ギ ダイサギ バン オオバン カワセミ コゲ
ラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤ
マガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メ
ジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キセキ
レイ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒ
ワ シメ ホオジロ (30種) (番外：ドバト) 新
型コロナウイルス禍の下での再開探鳥会第4弾。
天候に恵まれ、ポカポカ陽気の中でノンビリ野鳥
観察を楽しむことができた。日常に浸る幸せ。こ
うして皆と顔を合わせて鳥を見ていると、コロナ
のことを忘れてしまう。でも、まだまだ油断は禁
物。参加者から感染が起きませんように。2週間
は心配が続く（追：感染なしでした）。（浅見 徹）

新型コロナウイルスの感染拡大により、計画さ
れていた以下の行事は中止されました。

12月6日（日）さいたま市 民家園周辺
12月13日（日）加須市 渡良瀬遊水地
12月19日（土）さいたま市 岩槻文化公園
1月9日（土）千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園
1月11日（月祝）さいたま市 民家園周辺
1月16日（土）松伏町 まつぶし緑の丘公園
1月17日（日）さいたま市 三室地区
1月21日（木）羽生市 羽生水郷公園
1月24日（日）狭山市 入間川
1月27日（水）東京都 浮間公園
1月30日（土）群馬県板倉町 渡良瀬遊水地 Young
2月3日（水）さいたま市 大宮第二公園
2月7日（日）北本市 石戸宿
2月11日（木祝）加須市 加須はなさき公園
2月14日（日）さいたま市 秋葉の森総合公園
2月20日（土）上尾市 丸山公園
2月24日（水）東京都 浮間公園
2月27日（土）さいたま市 岩槻文化公園

野鳥データベースのデータから

調査部

野鳥データベースに埼玉県内の探鳥会以外で何
種のデータを提供いただいているか、2015-2019年で
数の多い27名をお名前の五十音順で紹介します。

野鳥データベースは、探鳥会、各種調査、『しら
こぼと』掲載の野鳥情報、野鳥リポーターなどに
よるデータを記録しています。データ提供者は、
全体では1200名を超えています。データ量は間も
なく28万件に達し、これらは、会員の方々の日頃
の活動成果であり、心から感謝しています。

報告者	鳥種 総数	各年の報告鳥種数				
		2015	2016	2017	2018	2019
浅見 徹	102	60	59	63	78	82
新井 巖	78	8	9	44	65	57
荒川貴之	56	13		43	46	
石井 智	90	54	60	60	65	76
石川敏男	83	22	33	21	47	28
今村富士子	101	59	72	72	71	76
榎本秀和	128	46	25	84	74	38
大井智弘	80		1	3	4	80
大塚純子	85	55	59	52	20	7
大畑祐二	109	15	67	67	12	16
倉崎哲郎	64	6	7	10	3	51
小林みどり	142	74	89	86	80	89
近藤龍哉	126	85	50	88	65	84
嶋田富夫	95			2	46	90
鈴木 功	53					53
鈴木紀雄	168	122	66	110	106	113
関口明宏	62		29	15	19	31
田中幸男	86	52	71	60	56	56
千島康幸	133	9	12	85	118	98
長嶋宏之	130	87	102	92	74	82
中橋由美子	89			23	66	84
藤原寛治	73	15		7	51	30
本多己秀	85	63	66	41		
三好正幸	52					52
村越百合子	77				56	60
森本國夫	125	2	29	90	87	90
吉原早苗	85			38	74	68



連絡帳

●調査部からの報告 2 件

報告 1 1 月 28 日(木)小林調査部長から下記メールが事務局に届きました。

「これまで毎月 9 月中旬以降に 1 回実施していた調査部主催のタカの渡り調査(寄居町・中間平、飯能市・天覧山)は、各担当者の了解を得たうえで、今年度以降は中止と決定した。

理由

- 1、調査活動なので探鳥会保険の対象にならないが、両調査地とも他の探鳥会開催地以上に転倒などの事故のリスクが大きい
- 2、1 シーズンに 1 回の調査では渡りの調査としてはあまり意味がない。他の方法がなければともかく、ホームページで県内各地の渡り情報を収集できるようになった現在、担当者に負担をかけ、事故のリスクを負ってまで継続する意味が見いだせない。」

報告 2 1 月 29 日(金)、小林調査部長から下記メールが事務局に届きました。

「春のシギチドリ調査は一般公開中止とし、調査部で実施する。

理由 新型コロナウイルス感染の恐れがあるため。」

いずれも 2 月 1 日(月)～2 月 3 日(水)に開催されたメール交換による役員会で報告されました。

●会員数は

2 月 1 日現在 1,484 人です。

活動報告

1 月 12 日(火)、『しらこぼと』2 月号入稿。

1 月 15 日(金)、同 2 月号埼玉事務局発送分納品。

同日、同 2 月号を『野鳥』誌と同封発送しない会員向けに袋詰め作業後、浦和中郵便局から発送(海老原教子、海老原美夫、山部直喜)。

1 月 18 日(月)～20 日(水)、メール交換による 1 月第 1 回役員会を開催。普及部・IT 委員会共同提案の議案「オンライン野鳥フォーラム(仮)の開催について」を承認した。

1 月 20 日(水)～22 日(金)、メール交換による 1 月第 2 回役員会を開催。山部代表、海老原副代表、小林副代表の 3 名共同提案の議案「来年度から『しらこぼと』の発行を、本部誌の発行に合わせ、隔月 6 回とする」を承認した。

2 月 1 日(月)～2 月 3 日(水)、メール交換による役員会を開催。普及部提案の議案 1 「4 月と 5 月に 6 件の探鳥会を開催する」、小林副代表提案の議案 2 「役員会は当面、メーリングリストを用いて行う。本件が可決された場合、メーリングリストの開設・運用は IT 委員会が担当する」、事務局提案の議案 3 「令和 3 年度埼玉県鳥獣保護管理員に、小荷田行男、小林みどり、橋口長和の 3 名を推薦する」を、それぞれ承認した。

編集後記

旅に出かけられなくなって久しい。昔の写真を手入れし、ホームページのリニューアルをしながら、



昔の旅をまた楽しんでいる。現在 2011 年 12 月のインド北部まで進んだ。写真は、その中の 1 枚、インドトキコウ。(海)

しらこぼと 2021 年 3 月号(第 444 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は [gyomu@wbsj.org](mailto:gyoumu@wbsj.org) または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。

印刷 関東図書株式会社